

文章題テスト・説明／論説(1)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)～(4)は段落の番号です。

① 近ごろは、真壁しんかべづくりの家が少なくなりました。木造建築アが少なくなったためです。しかし、木造家屋を「大壁」というつくりにするものが多くなったせいもあります。大壁というのは、板や合板やビニールクロスで家の骨組みほねぐみをおおい、柱を見えなくした壁のことです。大壁にすると、壁が家をささえている西洋の家にに似てきます。

② 大壁が主流になったのは、人々の好みと生活様式が、洋風になったためでしょう。しかしそれは、家のためには決して好ましいことではありません。日本は、高温多湿しつの季節がある国です。そういう国で、木材を、通気性のない外装そうと内装うちそうの間まにとじこめると、家をささえている大事な柱が、むれてヨワイくなってしまうからです。日本に真壁づくりが生まれたのには、それなりのわけがあるのです。

③ 木は、柱や板になってからも、生きて呼吸こきゅうしています。ですから、イキウがつけるように、せめて家の中ぐらいいは、柱をむき出しにしておいたほうがいい。一〇センチ角、長さ三メートルの柱一本は、ビールびん一本分の湿気を、吸すったり放出したりしています。柱をむき出しにしておけば、それだけの湿度を調節することができます。

④ 住まいを近代化すること、洋風にすることはちがいます。真壁づくりは、日本3の風土ふうどに合った構造エです。木の美しさや、大工さんの技術オも生きてきます。壁は、合板や石こうに変えてもかまいません。しかし、柱を空気にふれさせる構造は、ぜひ復活ふっかつしてほしいものです。
(河津かわづ 千代ちよ「知っていますか 日本の自然と木の文化」より)

(注) 真壁——柱と柱の間をうずめる形でつくられる壁

線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア けんちく

イ 弱(く)

ウ 息

ア 似た意味の漢字を組み合わせた熟語。

イ 音は「ジャク」、弱点など。

ウ 音は「ソク」。上の部分を「白」としないように。

エ こうぞう

オ ぎじゆつ

エ 「構」の訓は「かま—える」。「講」などと区別すること。

オ 「技」の訓は「わざ」。「術」は音のみで、「わざ、やりかた」の意味。



2 線「間」は、二つの漢字を組み合わせて、新しい意味を表すようにした文字（会意文字）です。これと同じででき方の漢字を、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 木 イ 洋 ウ 本

エ 好

アは絵文字を略した象形文字、イは音を表す部分と意味を表す部分を合わせた形声文字、ウは絵に似にくい事がらを印などで表した指示文字。

3 線「木造家屋を『大壁』というつくりにすることが多くなった」とありますが、それはなぜですか。その理由にあたる部分を文中から二十字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

人々の好み

②段落の初めにある。「大壁にすると…西洋の家に似てきます」もヒント。

4 線2「日本に真壁づくりが…わけがあるのです」とありますが、「真壁づくり」の良い点を、

③段落の言葉を使って、二十五字以内で書きなさい。

柱	を	む	き	出	し	に	す	る	こ
と	で	、	湿	度	を	調	節	で	き
る	点	。							

柱をむき出しにすることで、木が呼吸することができ、湿度を調整できる。

5 線3「日本の風土」の持ちようを述べている部分を、文中から十字で書きぬきなさい。

高温多湿の季節がある

「風土」とは、その土地の気候・地形・地質など。

6 この文章の内容に合っているものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

ア 真壁づくりよりも、柱を見えなくした大壁というつくりの方が木の美しさを生かすことができる。

イ 生活様式が洋風になってきたのだから、当然、家のつくりも西洋と同じにしたほうがよい。

ウ 木造建築の家が減ってきたのは、柱で家をささえる構造が日本の風土に合わないためである。

エ 住まいを洋風にすることよりも、日本の風土に合ったつくりの家を見直すことの方が大切だ。

④段落に筆者の主張がまとめられている。

